特設展

文学の中の富士山

2021年
7月17日（土）
▼
8月29日（日）

作家のおすすめビュースポット

富士山タイムスリップ

作家とアウトドア

山麓の暮らしから生まれた文学

富士山とわたし

小島烏水　高浜虚子
中村星湖　芥川龍之介

太宰治　草野心平
武田泰淳　武田百合子
ほか

点線にそって切りとると、「富士には月見草がよく似合う（太宰治「富嶽百景」より）」しおりになります。

作家が表現した富士山の魅力

そのことばのつづきへ
山梨県立文学館
Yamanashi Prefectural Museum of Literature

詩歌や小説などの文学作品に数多く描かれてきた富士山。作家が表現した個性豊かな富士山の姿を、「暮らし」「ビュースポット」「アウトドア」など身近なテーマの切り口から紹介します。

草野心平　「黒富士」　水彩

草野心平（一九〇三～一九八八）は生涯を通じて富士山を作品のテーマとし、多くの詩を創作、書や絵画も手がけた。

芥川龍之介　「富士山」原稿

芥川龍之介（一八九二～一九二七）が第一高等学校二年（一九～二〇歳）の時に書いた作文原稿。幼い頃に日本橋から眺めた春の富士山が印象的に描かれている。

太宰治　井伏鱒二宛書簡　1939（昭和14）年1月24日

太宰治（1909～1948）が御坂峠の天下茶屋で富士山と向かい合った日々を描いた「富嶽百景」において、井伏の実名を出したことを詫びている。結婚して間もない頃に、甲府市御崎町（みさきちょう）から出された手紙。

文学館のある芸術の森公園には富士山のビュースポットがあります。天気のよい日には素敵な風景が見られるかも。

このチラシの中で色のついた文字を組み合わせ、さらに「文学の中の富士山」の展示室の中にある１文字を付け加えると、ある4文字のことばができあがります。正解は、展示室で発表しています。

□ □ □ □

関連イベント

講座（年間文学講座3）「古典文学の富士山―平安時代を中心に」

日時:8月1日（日）午後2時～3時10分
講師:伊藤夏穂（当館学芸員）
会場:研修室　定員:40名

7月18日（日）から講座前日までの間にお電話でお申し込みください。先着順で定員になり次第、締め切ります。

ワークショップ「スノードームをつくろう」

日時:7月18日（日）午後1時30分～3時
講師:穂坂優（ハンドメイド作家）　材料費:500円
会場:研修室　定員:小学生以上20名

6月22日（火）からお電話でお申し込みください。先着順で定員になり次第、締め切ります。

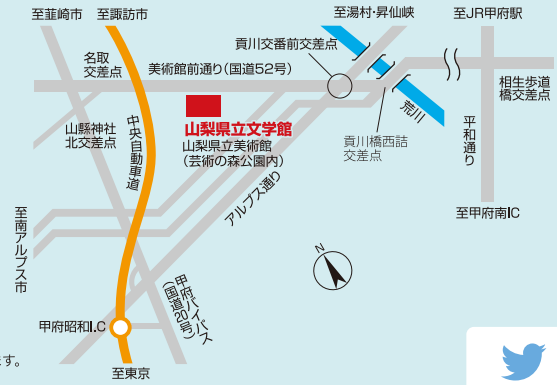
閲覧室資料紹介「富士山に魅せられた作家たち」

会期:7月17日（土）～8月29日（日）
会場:閲覧室（入場無料）

富士山麓の自然に親しみ、その風景を作品世界に綴った文学者たちの著作（図書・雑誌）を紹介します。

※展覧会、関連イベントが変更・中止となる場合があります。
当館ホームページで最新情報をご確認ください。

休　館　日／月曜日（8月9日は開館）
開館時間／展示室：午前9時～午後5時
（入室は午後4時30分まで）
閲覧室：午前9時～午後4時
観　覧　料／常設展観覧料でご覧いただけます。
一般330円（260円）
大学生220円（170円）
＊（　）内は20名以上の団体料金・県内宿泊者割引料金です。
＊高校生以下の児童・生徒、65歳以上の方、障害者手帳をご持参の方、およびその介護をされる方は無料。
※新型コロナウイルス感染症予防対策として、ご入館の際にはマスクの着用、検温、手指の消毒、チェックシートの記入をお願いします。



◆交通のご案内

中央自動車道甲府昭和インターチェンジより

●料金所を昇仙峡・湯村方面へ出て200m先を左折、西条北交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貢川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。

JR中央本線甲府駅より

●甲府駅バスターミナル（南口）1番乗り場より御勅使（みだい）・竜王駅経由敷島営業所・大草経由韮崎駅・貢川（くがわ）団地各行きのバスで約15分「山梨県立美術館」下車。
※甲府駅からのバスの時刻表は〈山梨交通HP〉よりお調べいただけます。
●タクシーで約15分。

Twitterでタイムリーに情報をお届けしています。　山梨県立文学館

そのことばのつづきへ
山梨県立文学館
Yamanashi Prefectural Museum of Literature
〒400-0065　山梨県甲府市貢川1－5－35
TEL：055-235-8080　FAX：055-226-9032
https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/

点線にそって切りとると、富士山と野鳥のしおりになります。